

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：人間と社会
部会長名：小笠原博毅
作成者名：小笠原博毅

概要（2000 字）

「人間と社会」部会は、社会学、文化人類学、社会思想等の専門領域から、社会科学分野を中心として構成される領域横断的な科目まで、多岐に渡る授業を展開している。構成員数 28 名中実質的に授業に関与したのは 20 名だが、それぞれに創意工夫に富んだ教育環境を創造しており、学生からのフィードバックも高評価を得ていることから、教育目的を十分に達成していると考えられる。

以下、評価項目について概観していく。

(1) 授業内容が基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか：

それぞれの授業科目における最先端の研究成果を多様な学部からの受講生に理解してもらえるよう、平易な中にも質の高い内容を提供することが各授業では強く意識されている。プリント配布やパワーポイントの提供にとどまらず、DVD、ビデオ、OHP、OHC 等の視覚教材や音楽等の音響教材を活用し、活用できる Web サイトを積極的に紹介するなど、情報へのアクセスを高めるような努力がなされている。

(2) 単位の実質化への配慮：

出欠確認や定期試験、学期末課題提出の徹底に加え、小レポートや小テスト、各回に授業のコメント・ペーパーを学生から回収するなど、受講生の積極的授業参加を促し、理解度・習熟度をチェックする工夫が行われている。予習・復習の奨励や多様な評価体制の導入などにより、単位の実質化は十分達成されていると考えられる。

(3) 教育の目的に照らしての授業形態の組合せ・バランス及びそれぞれの教育内容に対する適切な学習指導法の工夫：

各授業科目共にプリント配布やパワーポイントの提供にとどまらず、DVD、ビデオ、OHP、OHC 等の視覚教材や音楽等の音響教材を活用し、活用できる Web サイトを積極的に紹介するなど、情報へのアクセスを高めるような努力がなされている。大多数が大規模授業となっているため、学生への評価を多様な形で実質化し、コメント・ペーパーを回収するなどの相互対話性を深める努力がなされている。さらにプリント配布や機器操作などに T A を積極的に活用している。

(4) 成績評価基準に従った成績評価、単位認定：

各授業科目ごとにシラバスに明記してある成績評価基準とその配分割合に応じて成績を総合的に判断し、出欠確認、定期試験、小テスト、レポート、その他学期末課題等で厳格に成績評価、単位認定を実施している。

(5) 授業評価等から判断しての教育の成果や効果：

各担当教員による丁寧で詳細なアプローチによって、全体として学生の授業評価は高ポイントを獲得しており、単位取得にいたらなかったり放棄したりする学生数が他の教育部会と比べても小数であることから、教育の成果や効果は十分に上がっていると言える。

以上、「人間と社会」教育部会の各授業科目では、各教員・授業科目ごとに具体的な教育努力がなされ、多様な教材の適切な運用も行われていることから、教育の目的を十分に達成している。

様式2（続き）

項目・観点ごとの記述

基準5 教育内容及び方法

5-1-②： 授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

（観点に係る状況）はい。各教育分野の先端的成果を平易にかつポイント抑えて提供し、教養教育の充実に供する質を提供できている。

根拠資料： シラバス、教科書、Web 資料、配布プリント、パワーポイント（スライド）等。

5-1-③： 授業の内容が、全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか。

（観点に係る状況）はい。シラバス及び各担当教員の自己評価にもあるように、専門分野の基礎となる研究成果を伝えるために、多様な工夫がなされている。

根拠資料： シラバス、教科書、Web 資料、配布プリント、パワーポイント（スライド）、音声・映像資料（テープ、OHP シート、OHC 等）など。

5-1-⑤： 単位の実質化への配慮がなされているか。

（観点に係る状況）はい。出欠確認や定期試験、学期末課題、小レポートや小テスト、各回に授業のコメント・ペーパーなど、受講生の積極的授業参加を促し、理解度・習熟度をチェックする工夫が行われている。予習・復習の奨励や多様な評価体制の導入により、単位の実質化は十分達成されている。

根拠資料： 出欠簿、定期試験解答用紙、期末課題、小レポート、小テスト解答用紙、コメント・ペーパー。

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、多様なメディアを高度に利用した授業、情報機器の活用、TAの活用が考えられる。）

（観点に係る状況）はい。各授業科目共にプリント配布やパワーポイントの提供にとどまらず、DVD、ビデオ、OHP、OHC等の視覚教材や音楽等の音響教材を活用し、活用できる Web サイトを積極的に紹介するなど、情報へのアクセスを高めるような努力がなされている。大多数が大規模授業となっているため、学生への評価を多様な形で実質化し、コメント・ペーパーを回収するなどの相互対話性を深める努力がなされている。さらにプリント配布や機器操作などにTAを積極的に活用している。

根拠資料：配布済プリント、パワーポイント（スライド）、DVD、ビデオ、OHP、OHC等の視覚教材、フィールドノート、フィールドワーク時の映像・音響資料、インタビュー・データ、コメント・ペーパー、Web資料

5-2-③： 自主学習への配慮，基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

（観点に係る状況）はい。予習・復習を奨励し、小テストや小レポートなどで進度・習熟度チェックを定期的に行っている。授業中に質問等を受け付け、大規模授業ながらも相互的な環境づくりに努めている。

根拠資料：小テスト解答用紙、添削済小レポート、コメント・ペーパー

5-3-②： 成績評価基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）はい。シラバスに明記してある成績評価基準とその配分割合に応じて成績を総合的に判断し、出欠確認、定期試験、小テスト、レポート、その他学期末課題等で厳格に成績評価、単位認定を実施している。

根拠資料：出欠簿、定期試験解答用紙、添削済小レポート、小テスト解答用紙、その他学期末課題

基準6 教育の成果

6-1-③： 授業評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）はい。全体として学生の授業評価は高ポイントを獲得しており、単位取得にいたらなかったり放棄したりする学生数が他の教育部会と比べても小数であることから、教育の成果や効果は十分に上がっていると言える。

根拠資料：学生授業評価、コメント・ペーパー

基準7 学生支援等

7-1-②： 学習相談，助言（例えば，オフィスアワーの設定，電子メールの活用，担任制等が考えられる。）が適切に行われているか。

（観点に係る状況）はい。TAによるプリント配布、機器操作の円滑化によって授業をスムーズに運営できる環境が作られている。授業時間内及びその前後では対応できない質問等に関して、各担当教員のオフィス・アワーを活用するよう奨励している。

根拠資料